

令和2年度学校自己評価システムシート（さいたま市立浦和南高等学校）

（学校番号 s 5 1）

目指す学校像	文武において高きに挑み、深く学び、地域社会・国際社会に貢献することができる「知・徳・体」の調和がとれた人材を育成する学校
重点目標	1 主体的に学習できる生徒の育成と進路実績の一層の向上を図る。 2 主体的に取り組む生徒を育成するため活力と特色ある教育活動を推進する。 3 コミュニティ・スクールとして地域に開かれた信頼される学校づくりを推進する。

達成度	A	ほぼ達成（8割以上）
	B	概ね達成（6割以上）
	C	変化の兆し（4割以上）
	D	不十分（4割未満）

※重点目標は3つ以上の設定も可。重点目標に対応した評価項目（年度達成目標を意味する。）は複数設定可。
※番号欄は重点目標の番号と対応させる。評価項目に対応した「具体的方策、方策の評価指標」を設定。

学 校 自 己 評 価					年 度 評 価（2月1日現在）		
年 度	目 標	年 度 評 価	達 成	次年度への課題と改善策			
番号	現状と課題	評価項目	具体的方策	方策の評価指標	評価項目の達成状況	達成	次年度への課題と改善策
1	<p>【現状】 進学重視型単位制、55分授業、週34単位、年8回の土曜授業というシステムが定着し、現役4年制大学進学率は9年連続80%を超えている。</p> <p>【課題】 学校としてのシステムは定着したが、3大課題への取組が必要である。 ①改善に向けたPDCAサイクルの構築 ②生徒の入学時の進路希望と卒業時の進路結果とのギャップを埋めるキャリア教育の構築 ③新型コロナウイルスの感染拡大に伴う臨時休業など、通常の授業展開が困難な状況の中で、オンライン学習など新しい学習スタイルの構築</p>	<p>授業力向上による確かな学力の向上</p>	<ul style="list-style-type: none"> 授業力向上研修等の充実 ICT教育環境の構築 SDGsを活用した「総合的な探究の時間」の実践 生徒・保護者アンケートの実施と改善 新教育課程の検討 	<ul style="list-style-type: none"> 授業力向上研修会を年3回以上実施 ICT教育環境の整備状況 「総合的な探究の時間」の実践回数と生徒の意識向上 生徒・保護者へのアンケート調査回数と具体的な取組状況 新教育課程の仮提出と完成 			
		<p>着実なキャリア教育の推進と進路実現に向けた計画的な取組</p>	<ul style="list-style-type: none"> 多角的なキャリア教育の立案と実施 生徒・保護者向け大学進学情報提供や進学ガイダンスの充実 模試分析会の活用 英語資格試験の全員受検と合格率の向上 学習支援サービスの効果的な活用 	<ul style="list-style-type: none"> 入学時の進路希望を実現できる多面的なキャリア教育計画の立案 生徒・保護者向け大学進学情報提供回数 模試分析会の回数と共有状況 英検準2級以上の合格率9割以上 学習支援クラウドサービスの利用状況と効果的な活用 			
2	<p>【現状】 学校行事に対する生徒の満足度は79.2%（市立高平均91.1%）と低いが、部活動に対しては88.5%（市立高平均88.6%）と高い。5つの体験活動（①海外研修②社会探検工房（産業能率大と連携）③海の生物学（東海大と連携）④スポーツ&ビジネス（NTTデータ経営研究所と連携）⑤グローバル人材育成プログラム（ニュージーランド姉妹校との連携）を軸とした多様な探究プログラムの取組が定着してきている。</p> <p>【課題】 新型コロナウイルス感染拡大防止の取組を踏まえ、安心安全な教育活動、部活動に取り組む必要がある。多様な探究プログラムがあるが、一部恒例化しており、総合的な探究の時間等と連携して再構築する必要がある。</p>	<p>学校行事・部活動の充実と安心安全の確保</p>	<ul style="list-style-type: none"> 生徒の主体性を引き出す学校行事の取組 新型コロナ感染拡大防止を踏まえた安心安全の確保 	<ul style="list-style-type: none"> 生徒の主体性を生かした文化祭等の学校行事が実施できたか。 従来の安全教育と共に、新型コロナ感染拡大防止へ具体的に取り組んでいるか。 			
		<p>主体的に取り組む生徒を育成するための特色ある教育活動（文武自考）</p>	<ul style="list-style-type: none"> 生徒の主体性を引き出し達成感を感じさせる部活動の取組 探究プログラムの一層の充実 スポーツ&ビジネスによるSTEAMS教育と生徒の非認知能力伸長への取組 	<ul style="list-style-type: none"> 生徒の部活動への加入率と満足度 探究プログラムへの参加生徒数 スポーツ&ビジネスへの登録者数と活用方法 			
3	<p>【現状】 長年培ってきた近隣の小中学校や自治会と連携により、コミュニティ・スクールとして一定の信頼を得ている。</p> <p>【課題】 本校教育活動への理解をさらに深めていただくために、より一層の地域に開かれた信頼される学校づくりの推進と情報発信が求められる。</p>	<p>保護者、地域に開かれた学校づくり</p>	<ul style="list-style-type: none"> 近隣小中学校、辻地区、さいたま市及び南区との連携推進 地域、保護者への迅速な情報発信 学校運営協議会との連携・協働の充実 	<ul style="list-style-type: none"> 連携回数と効果的な情報発信回数 H P更新回数、文書、メール配信回数 学校運営協議会を通して地域と有益な連携・協働を行うことができたか。 			
		<p>危機管理の徹底と組織的な風通しの良い学校運営</p>	<ul style="list-style-type: none"> 学校危機に対する迅速かつ的確な対応 企画委員会を中心とした学校課題の共通理解と、解決に向けた組織的な対応 	<ul style="list-style-type: none"> 新型コロナウイルス感染拡大防止などの学校危機に対して的確な対応ができたか。 企画委員会を中心とした学校課題の共通理解と、解決に向けた組織的な課題の検討ができたか。 			

学 校 関 係 者 評 価	
実施日	令和3年 月 日
学校関係者からの意見・要望・評価等	